

事務局から

▼「いがたの教育情報」100号の記念事業の一つとして、平成の大合併や少子化にともなって生起している小中学校統廃合同題の調査・研究を取り上げました。11月8日「いがたの自治体研究所」と共催で、「地域と教育」の研究に造詣が深い福島大学の境野健児教授講師によるセミナーを開催し、更に9～10日、佐渡市の会員の皆様のご協力を得て、先生には統廃合と小規模校の教育調査にも入っていたいただきました。それについては、次号に掲載予定です。

▼もう一つの試みとして、創刊以来休まずに100号を迎えて、これまでの『教育情報』の総目次を刊行いたしました。在庫部数の限られている号もありますが、バックナンバーをご活用下さい。

▼次号101号は、特集「小中学校の統廃合同題」を企画しています。地域の教育力を生かし、小さな学校で、大きな教育・輝く子育てを取り上げるつもりです。

(内山)

編集後記

▼新米編集長が100号という記念すべき節目の号に立ち会うことになりました。

故八木所長が生前に「5号も出れば立派と思っていた」と述べられていたことを思い出します。多くの会員の方の文字通り、淨財によつて今日があることを重く噛みしめています。

課題は山積みですが、ことに現職の教職員、なかでも若い教員に読まれていないことに大きな責任を感じています。

▼11月に福島大学の境野さんと佐渡の小さな小学校をたずねてきました。総合学習で児童に能を教えたり、アゴダシ（飛び魚でつくるダシ）作りを指導している町の名人にお話を聞きました。どなたも次第しだいに子どもたちが上達してゆくさまを嬉しうに語っていました。そこには地域の方と先生と生徒たちによる確かな教育の営みがありました。

財政的理由によつて、こうした小さな学校が存在を許されないとすれば、地域の特色ある文化も失われる恐れがあります。

地域の特色ある教育実践を、今後もひきつづいて追求していきます。

▼99号から二回にわたつてお話を伺った嘉村さんは、ご存知の通り本県教育の中核を歩まれた方です。それとともに、いわゆる「学園」と称される研修団体・ときわ会の中核にもおられた方でもあります。「基本的人権を守り、民主主義を貫く政治体制を確立する人間を育てる」ことが教師の役目だと述べておられます。いま大事な指摘だと思

(大滝)

いがたの教育情報 No. 100

2009年12月21日発行

編集・発行 いがた県民教育研究所

発行人 小林 昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

TEL・FAX (025)228-2924

振替口座 00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959